

any

ars nova yamaguchi

「エニー」

Spring 2023

APR.-JUN.

123

特集

許家維+張碩尹+鄭先喻

新作展「浪のしたにも
都のさぶらふぞ」



日台砂
近本湾た糖
代のとるて



20th ANNIVERSARY

特集

03 砂糖でたどる
台湾と日本の近代

許家維 + 張碩尹 + 鄭先喩
新作展「浪のしたにも都のさぶらふぞ」

08 any 通信

- ◎アーティストボイス 串田和美 (俳優・演出家)
- ◎お先に試写しました 「丘の上の本屋さん」(監督:クラウディオ・ロッシ・マッシ)
- ◎読書の窓 小林南水子『生け雑草』
- ◎映画と 『マイヤ・イソラ 旅から生まれるデザイン』パンフレット
- ◎any music 川本真琴「ピカピカ」

ピックアップイベント

10 山口情報芸術センター
第7回 未来の山口の運動会
—あつまれ! 未来のスポーツ収穫祭
新しいスポーツが大豊作!!

ハイバイ「再生」
演劇史に残る怪作が生まれ変わる。

中原中也記念館
企画展I 中原中也と関東大震災
関東大震災から100年。文学に与えた影響を探る。

山口市民会館
特撰落語名人会 三遊亭小遊三・林家たい平 二人会
落語の魅力をたっぷり。

DRUM TAO 30周年記念「THE TAO 夢幻響」
究極のドラム・アート。

13 ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2023

14 イベントカレンダー 4~6月
INFORMATION



〈浪のしたにも都のさぶらふぞ〉の撮影風景
(場所:関門製糖) photo: 白澤哲浩



20th ANNIVERSARY

特集 許家維 + 張碩尹 + 鄭先喩
新作展「浪のしたにも都のさぶらふぞ」

6月より山口情報芸術センター[YCAM]で開催される台湾を拠点とする許家維(シウ・ジャウエイ)、張碩尹(チャン・ティントン)、鄭先喩(チェン・シェンユウ)による新作展は、台湾と日本の歴史や関係性を砂糖産業を起点に紐解く展覧会。同時に、YCAM開館20周年記念事業の目玉の一つとしてVR、バイオテクノロジーなどYCAMが20年間で培ってきた知見や技術を結集した展覧会になるという。そんな壮大なスケールの展覧会について、現在制作準備を進めているキュレーターの吉崎さんにお聞きした。

台湾でそれぞれに活躍しているアーティストが3人集まって一緒に作る作品



台湾編《等晶播種》のワンシーン。

まずは今回新作を一緒に制作するアーティストの紹介をお願いします。

現在、許家維(シュウ・ジャウエイ)、張碩尹(チャン・ティントン)、鄭先喻(チェン・シェンユウ)という台湾の3人のアーティストと新作を作っています。それぞれ台湾で活躍しているアーティストですが、今回はその3人が集まって一緒に作品を制作しています。

許家維は国際的にも注目されているアーティストで、昨年開催された国際芸術祭「あいち2022」をはじめとして日本でもたびたび作品を発表しています。台湾の歴史あるいは自身のルーツをアジアの他の国々との関係史から辿るような映像作品を作っていて、そこでは従来の歴史の語りでは見過ごされてしまうような事象や個人の記憶に光が当たります。

張碩尹は、インスタレーションや映像作品、パフォーマンスなど幅広い表現活動を行っています。消費社会が与える社会的、生態的影響など社会政治的な主題を扱い、人間とテクノロジー、社会の

関係性について考察するような作品を作っています。最近では、恋愛シミュレーションゲームを用いた没入型作品やインタラクティブな映像作品をインターネット上に発表しています。

鄭先喻はアーティストとして活動しながら、同時にソフトウェア開発者としても活動していて、他のアーティストともよくコラボレーションをして作品を作っています。インスタレーションやパフォーマンス、バイオアート作品などを手掛けていて、人間の行動や感情、機械との関係性に注目したとてもユーモラスな作品を作っています。2021年に台湾の芸術賞「第19回台新芸術賞」を張碩尹とともに受賞し、今注目されているアーティストです。3人とも1980年代生まれで年齢も近く、普段からお互いの作品制作を手伝うこともあるようです。ただ、3人が共同で一つの作品を制作するのは、今回が初めてです。

どういう経緯でこの3人と一緒に作品を制作することになったのでしょうか？

彼らは2021年に本作の第1章にあたる《等

晶播種》という映像インスタレーションを台湾で制作、発表しました。その作品の上映会とアーティストトークが2021年11月に北九州の門司であったので、観に行きました。作品自体とてもおもしろく、さらに日本統治時代の台湾における製糖業のことや砂糖が軍用燃料として研究開発されていたことにも興味を持ちました。トークで日本編を作る計画を知り、その制作に何らかの形で関わることができたらと漠然と考えていたら、翌12月にホー・ツェン(2021年にYCAMで「ヴォイス・オブ・ヴォイド—虚無の声」展を開催したシンガポールのアーティスト)から「YCAMとコンタクトをとりたがっているから紹介するよ」と連絡があり、作家の一人である許とつながり、偶然にも彼らもYCAMと一緒に作品を制作したいと思ってきていたようで、話を始めて日本編を一緒に作ることになりました。



《等晶播種》展示風景(台湾現代文化実験場[C-LAB]、2021年)
photo: 劉 哲均

吉崎和彦 YOSHIZAKI Kazuhiko

1980年生まれ。2009年、東京都現代美術館に学芸員として勤務。映像、写真、身体表現、音楽など様々なジャンルの展覧会を担当する。17年10月よりYCAMのキュレーターに就任。主に展覧会の企画を行う。

photo: 谷 康弘



大日本製糖株式会社台湾支社虎尾製糖所の全景(撮影年不明)
国立台湾歴史博物館 OPEN DATA

台湾・虎尾と日本・門司のそれぞれで作品をつくるというアイデアが生まれた

アーティストたちは作品を最初から2部構成で考えていたのでしょうか？

そのアイデアは初期の段階からあったようです。このプロジェクトのきっかけを作ったのは張で、彼の故郷である「虎尾」という街に日本統治時代に作られ、今も現役で稼働している製糖工場があって、張がこの製糖工場から虎尾や台湾の歴史を考える作品を作ろうと、許と鄭に声をかけたことがはじまりです。彼らがりサーチをしているなかで、虎尾の製糖工場を作った大日本製糖が運営していた製糖工場が日本の門司にもあり、今は関門製糖

として稼働していることを知り、虎尾と門司のそれぞれで作品を作るアイデアが生まれたと聞いています。

「砂糖」は今回の展覧会で重要な要素なのですね。

日本は台湾の統治時代に近代化政策を推し進め、その中で日本に砂糖を供給するために砂糖産業の発展に力を入れました。台湾の虎尾にある製糖工場は、戦後、運営する母体が大日本製糖ではなくなった今でも稼働している現役の工場です。作家たちにとって、製糖工場はある種の近代化の象徴でもあると捉えています。台湾で原料糖(粗糖)を作って日本に運んでいく、その行き先の一つが門司港だったので。門司の工場で白い精製糖になり日本各地に運ばれていきました。戦争末期、東南アジアから石油が運ばなくなり、石油が手に入らなくなった日本は、戦闘機を動かすための代用燃料を探さなければいけません。そこで注目されたのがサトウキビでした。サトウキビの汁を原料とし、発酵、蒸留を経てアルコール

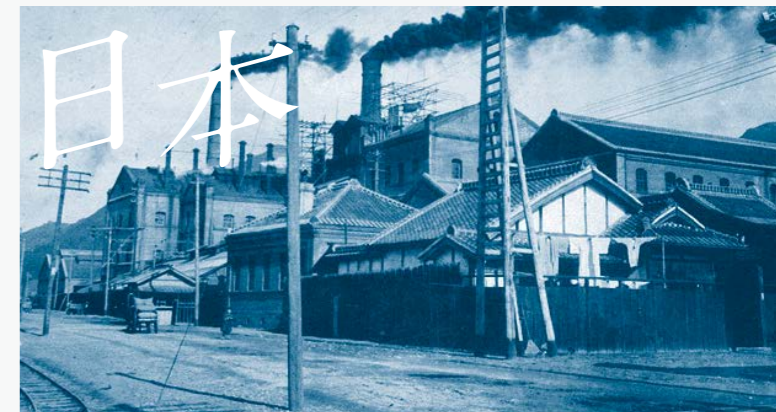
を作り、それをガソリンに代わる燃料とする研究が戦時中進められました。実戦で使うまでは至らなかったようですが、その製造施設が虎尾にもあったために、街への空襲が激しかったそうです。砂糖が甘みを生むだけではなく、戦争のための動力としてなり得たということ、この砂糖の2つの側面が今回の展覧会のキーにもなっています。

展覧会名になっている「浪のしたにも都のさぶらふぞ」とは？

『平家物語』の中の一節を引用しています。今回日本編の舞台の一つである門司港は、関門海峡に面する港町です。関門海峡は、栄華を極めた平家がやがて衰亡の一途をたどり、源義経率いる源氏の軍勢に破れることになった壇ノ浦の合戦の舞台でもあります。この時、二位殿(平時子)はまだ8歳だった安徳天皇を抱いて海に入水します。その際、二位殿が幼い帝に言った言葉が、「浪のしたにも都のさぶらふぞ(波の下にも都がございますよ)」です。

砂糖の2つの側面が 甘みと戦争の ための動力

北九州市門司・大里製糖所の全景(1907年) 提供: 鈴木商店記念館
虎尾の製糖所と同じく大日本製糖が運営していた。現・関門製糖。





バカスを燃やした黒い煙を纏っている
the chimneys looked like five incense sticks offered to Mazu the goddess.

YCAMが培ってきた テクノロジーも活かしていく

展覧会はどのような構成になるのでしょうか？

展覧会では、《等晶播種》と、展覧会タイトルと同名で新作となる《浪のしたにも都のさぶらふぞ》を発表します。《等晶播種》は、砂糖の結晶を模したジグザグの形をしたスクリーンに映像が投影され、その周りに砂糖や兵器にまつわるオブジェやロボットアームが配置され、映像とともに動いたり、照明が変化するなど無人劇のような上演型インスタレーションでした。今回の展覧会では、その映像を中心にしたシンプルな展示になる予定です。本展のメインとなる《浪のしたにも都のさぶらふぞ》は、空間を大きく使って、映像プロジェクションとライブパフォーマンスからなる上演型のインスタレーションになる予定です。

《浪のしたにも都のさぶらふぞ》の映像では、文楽協会の人形遣いが操る文楽人形や、三味線の演奏、太夫の浄瑠璃、そして打楽器奏者による砂糖で作った楽器のパーカッションが登場します。さらに会場

では、VRのヘッドマウントディスプレイを装着したパフォーマーがパフォーマンスを行います。それ以外に、砂糖を発酵・蒸留して作るアルコールを使って、それを動力に展示の何かを動かすアイデアも検討しています。いままでYCAMが培ってきたバイオテクノロジーや映像技術、最近のホー・ツーニェンの展覧会も含めてVRの技術も活かしながら、新しい表現を模索中です。

また、会期中は台湾の文化を紹介するイベントも多数開催します。国際的にも注目

人形と 操る・操られる の関係性

されている台湾のインディーズ音楽を紹介するイベントのほかに台湾映画の上映会やトークイベントなど、台湾の文化を知ってもらい、さらに作品もより知ってもらえるような機会を作れるように準備を進めています。



日本編《浪のしたにも都のさぶらふぞ》の制作風景。文楽人形を操る人形遣いたち。門司の関門製糖工場内にて。

photo: 山中慎太郎 (Qsyum!)



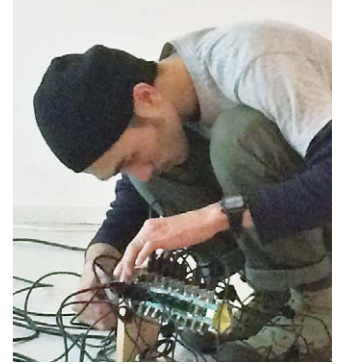
許家維(シュウ・ジャウエイ)
HSU Chia-Wei

1983年台中生まれ。2000年代前半から、作品の発表や展覧会の企画など精力的な活動を展開。従来の歴史に内包されない人間・物質・場所の関係性を繋いでいく。とりわけ、忘れ去られ、なおざりにされてきた物語を通じて、台湾を含むアジア帯の地理的、歴史的、文化的繋がりを示す作品を発表している。



張碩尹(チャン・ティントン)
CHANG Ting-Tong

1982年台北生まれ。科学や生物学などの知識を元に絵画、パフォーマンス、映像作品を制作し、人間、科学技術、社会の関係性について考察してきた。台湾の近代を個人史の視点から俯瞰する作品まで、多様なアプローチで現代社会の側面を切り取るプロジェクトを手がける。



鄭先喻(チェン・シェンユウ)
CHENG Hsien-Yu

1984年高雄生まれ。ソフトウェア開発者、アーティスト。インスタレーションやパフォーマンス、ソフトウェア、実験的なバイオアート作品を手がける。人間の行動、感情、ソフトウェア、機械の間の関係性に重きをかけた作品を通して、社会と環境に対する独自の視点をユーモラスに表現している。

《浪のしたにも都のさぶらふぞ》で文楽人形などが登場するのはなぜでしょう？

人形は《等晶播種》の映像の中にも登場します。作中で、台湾の伝統的な人形劇「布袋戲(ポテヒ)」により、日本の幕末を舞台に、鞍馬天狗という孤高のヒーローが新選組の近藤勇と戦う、大佛次郎原作の『鞍馬天狗』が元になった演目が上演されています。『鞍馬天狗』は台湾でも人気を博し、皇民化教育の一環として布袋戲でも上演されました。虎尾がある地域は布袋戲が盛んで、その土地に住む人々にとって馴染みのある人形劇の形式を用いて、虎尾の歴史を語るということが試みられています。

《浪のしたにも都のさぶらふぞ》では日本の伝統的な人形劇である「人形浄瑠璃」の形式を表現に取り入れています。本作では具体的な演目を上演するというよりは、人形と人形遣いの「操る・操られる」関係性により注目しています。さらに、VRアニメーションでも人形が登場し、それを「アバター」としてパフォーマーが操ります。こうした「操る・操られる」関係性が、日本と台湾、仮想現実と現実の関係性に重ね合わされ、誰が操り、

操られているかを見る者に問いかけるものになるでしょう。

アジアのアーティストの視点から、自分たちの歴史や現在のことを考える

制作過程で、吉崎さんが発見したことはありますか？

あります。アーティスト3人の祖父の世代は日本の統治下で日本語を公用語(国語)として教育を受けた世代ですが、アーティストやその親の世代は、中国語を公用語として教育を受けています。また、台湾語を話す人も多く、家庭の中では中国語と台湾語が混ざって話されているとも聞きます。このように世代によって話す言語が違う、あるいは家庭内と外で話す言語が違うと知ったとき、私が当然と考えていたことが揺るがされました。日本では、地域によって方言はあるものの、基本的には家庭の中であろうと公の場であろうと同じ言語、日本語を話す。それが当然だと思っていたけれども、同世代の台湾の彼らにとってはそれが自明のものではない。そのことを知ったときに、「国語」とは

何なのだろう、「国」とは何なのかを考えさせられました。

2021年に招聘したホーの作品も、今回の台湾の3人のアーティストたちによる作品も、アジアのアーティストの視点から日本の歴史を考えるという点で共通しています。そのなかで感じるのは、彼らが歴史を単なる過去のものではなく、現在や未来を考えるために現在と不可分のものとして見ようとしている。彼らの歴史に対する向き合い方やその視点から私たちが学ぶことも多いと思いますし、改めて自分たちの歴史や現在のことを考えるきっかけにもなっていると思います。

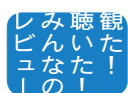
許家維 + 張碩尹 + 鄭先喻 新作展

「浪のしたにも 都のさぶらふぞ」

2023年6月3日(土)～9月3日(日)
10:00～19:00

会場: 山口情報芸術センター スタジオA

[料金] 無料



- 長時間パワフルに語り続けられるお2人にとても元気づけられました。(泉ピン子の「すぐ死ぬんだから」より)
- 「春と修羅」を読んでみようと思いました。(テーマ展示「中也の本棚——日本文学」より)
- それぞれの高いテクニックに裏打ちされたパフォーマンスだったと思います。(「パフォーマンス・セレクション」より)
- 自然を感じながらのアート体験で新鮮でした。(坂本龍一「Forest Symphony」より)



【人形浄瑠璃(にんぎょうじゅうりょう)】「浄瑠璃」とは、三味線の伴奏で「太夫(たゆう)」が物語を語る、日本の伝統的な芸能の一つ。15世紀中頃に生まれ、その後広く流行した牛若丸と浄瑠璃姫の恋物語の主人公の名前にちなんで「浄瑠璃」と呼ばれるようになる。浄瑠璃に合わせて人形を操るのが「人形浄瑠璃」で、太夫、三味線、人形遣いの「三業」が息を合わせて表現する総合芸術。

先行チケット
発売情報
早チケ

5月27日
発売!

アンディ・マンリー
「ベック」

2023年7月30日(日)
①11:00開演 ②14:30開演
会場:スタジオB



過去作品:アンディ・マンリー「Stick by me」
photo: Mihaela Bodlovic

子どもたちや、若い観客のためのパフォーマンスを専門とする舞台アーティスト、アンディ・マンリー。彼の作品は世界的に高い評価を受けており、伝説的ヒット作になった「ホワイト」や「スティック・バイ・ミー」などは日本でも上演されてきました。今回発表する新作は「鳥たちの歌声」がテーマ。タイトルの「ベック」は、鳥たちがくもばしでつくことを意味しています。大人も子どもも楽しめるナンバーバルな舞台です。

[チケット情報]5月27日(土)～
[料金]全席自由
前売 おとな2,000円 ほか

P I C K U P E V E N T ! S P R I N G 2 0 2 3
ピックアップイベント

山口情報芸術センター[YCAM]

https://www.ycam.jp/

第7回 未来の山口の運動会 —あつまれ! 未来のスポーツ収穫祭

2023年5月5日(金・祝) 11:00～18:00
会場:スタジオA

新しいスポーツが大豊作!!

YCAMでは、新しいスポーツを自分たちで作る「スポーツ共創」という考え方を実践するイベント「未来の山口の運動会」を2015年から続けてきました。また、YCAMの活動に限らず、山口の様々なグループ、個人が新しいスポーツ作りを始めています。今年の大会では、これまでにYCAMや、山口市内の色々な団体・個人が作った様々なオリジナル種目が大集合。選び抜かれた5～6種目を、参加者一丸となって競技していきます。運動が好きな人ももちろん、体を動かすことが苦手な人も大歓迎! アイデアがたくさん詰め込まれた「実り」がいっぱいの未来の運動会にぜひご参加ください。



過去開催時の様子 photo: 山中慎太郎 (Qsyum!)

わたしはココに注目する!

今大会では、揺れた回数をカウントするボールをパスしながら振動数を競う「揺らして送れ! なかまんボール!」や、歴史を学びながら老若男女が楽しめる「倒幕サバゲーム」など、ここ山口で生まれた種目が登場します。新しいスポーツとの出会いをどうぞお楽しみに!

料金 ■ 無料(要申込/先着順) [対象]小学生以上 [定員]100名 ※申込方法等の詳細はお問合せください。

P I C K U P E V E N T ! S P R I N G 2 0 2 3
ピックアップイベント

中原中也記念館

https://www.chuyakan.jp/

企画展I

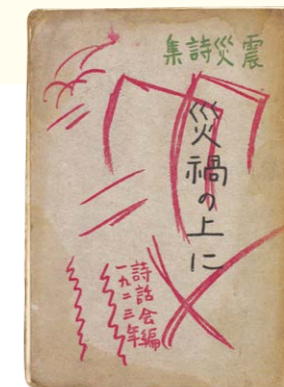
中原中也と関東大震災

2023年4月19日(水)～7月23日(日)

関東大震災から100年。 文学に与えた影響を探る。

1923年9月1日、マグニチュード7.9の大地震が関東地方を襲います。この関東大震災は未曾有の被害を与え、人々の暮らしや文化に大きな変化をもたらしました。中原中也は京都に住んでいたため被災することはありませんでしたが、2年後に上京し、復興期の東京で生活しました。2023年は関東大震災から100年目にあたります。本展では、当時の状況や文学者・中也の周辺人物の被災体験、災害から生まれた文学などを通じて、文学の背景にある震災の影響を探ります。

入館料 | 一般 330円(275円) / 大学生・高等専門学校の学生 220円(165円)
※あわせてテーマ展示もご覧いただけます。 ※18歳以下、70歳以上無料 ※()内は20人以上の団体料金



詩話会編『震災詩集 災禍の上に』
(1923年、新潮社)

わたしはココに注目する!

関東大震災により多くの人が東京から地方へと逃れますが、のちに中也の恋人となる長谷川泰子もそのひとり。移り住んだ京都で中也と出会いました。中也の人生を大きく変えた出会いの背景にも注目します。

これで
あなたも中也通?
検定



長門峡(戦前の絵葉書より)

2023年は、山口市の名勝・長門峡渓谷「史跡指定」100年です。長門峡は、中原中也のお気に入りの場所で、「冬の長門峡」という詩も制作しています。この「冬の長門峡」の中で、中也は夕陽が欄干にこぼれる様子がある果物にたとえて表現しています。さて、その果物とは次のうちどれでしょう?

- みかん
- りんご
- ぶどう

答えは14ページ

イベントレポート

わたしもアートがわからない vol.3
「わからなさ」の重さをはかる



photo: 谷康弘

アート作品鑑賞の「コツ」を伝えるシリーズ企画「わたしもアートがわからない」。その第3弾を、演劇や教育関係の活動を続けている俳優であり、批評家の渡辺健一郎を講師に招いて開催しました。YCAM教育普及スタッフの原が投げかけ、それに応える対談形式で渡辺が自身の活動から考えてきた「わからない」とはどういうことかを提示していきます。小中学生への演劇教育を通じてみえてくる「自由・不自由」の話や、俳優が舞台でどのように身体を捉えているのか、哲学的な視座をからめつつ「わからなさ」を探っていた2時間。「わかろうとする」のではなく、「わからないままに続けられる」態度をとっているという渡辺の言葉が印象に残りました。

ハイバイ「再生」

2023年7月8日(土) 19:00開演 / 9日(日) 15:00開演
会場:スタジオB

演劇史に残る怪作が 生まれ変わる。

2006年に多田淳之介が主宰する「東京デスロック」によって発表された演劇作品「再生」。初演時にこの作品を観たハイバイ・岩井秀人は大きな衝撃を受け、15年に岩井と快快でタッグを組み上演されました。そこから8年の年月を経て、俳優やダンサー、モデルなど様々な分野から唯一無二の肉体を持つキャストが集結。独自の手法を用いて、決して再生できない「時間」や今ここにある「生」を克明に描き出し、演劇界の常識を覆した話題作のハイバイ版をどうぞお見逃しなく!



わたしはココに注目する!

実はハイバイは、代表作の一つである「ヒッキー・カンクートルネード」を携えて山口初となる上演を2021年の9月に予定していました。でも残念ながら新型コロナウイルスの影響により、YCAMが休館。そのため、公演も中止を余儀なくされました。あの日楽しみにされていた方、お待たせしました。作品は変わりますが、ハイバイの初上演をどうぞお楽しみに!!

チケット情報 | 5月6日(土)～
料金 | 全席自由 前売 一般 3,000円 / any会員・特別割引 2,500円 / 25歳以下 1,500円 / 高校生以下 500円
当日 一律 3,500円

[演出]岩井秀人 [原案]多田淳之介(東京デスロック)

- 特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
- 特別割引:シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。
- いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
- 特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
- 特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

【受賞者コメント】



photo: 和田信太郎

青柳菜摘
AOYAGI Natsumi

詩集としての作品が、緊張感ある議論の場になり、このような結果を得られたこと、嬉しく、驚き、たくさん汗をかいています。私はアーティストとして活動を続けるなかで、ビジュアルに表せない言葉の表現というものに苦戦しながらも挑んできました。だからこそ、「一冊の詩集」として表現することは、私にとっておおきな挑戦でもありました。『そだつのをやめる』は、単純に成長しなくなることはありません。過去も、先も見通して、意思をもって「そだつ」を考え直すことです。改めて、詩作することに背中を押してくれたみなさま、活動を見守ってくれているみなさま、ありがとうございます。

1990年生まれ。東京都在住。東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻卒業。2022年11月に刊行された詩集『そだつのをやめる』(thoasa)が、全国より集まった204点の応募・推薦詩集の中から第28回中原中也賞を受賞した。

(『そだつのをやめる』所収)

手と手のすきまにすがたのない
チョウの熱がこもる
こちらの背をむける
鱗粉は右手のひらに移った
こちらに手をかぶせる
左手のひらに鱗粉が移った

手のなかのチョウ

受賞詩集

『そだつのをやめる』
(thoasa)



第28回 中原中也賞

観覧
聴いた
よな
の!

- AIがウソをもっともらしく言うのが怖くもあり、おもしろかったです。(「アンラーニング・ランゲージ」より)
- 奥深い音色にうっとりしました。(「DYNAMIC 賢者の首I 辻本玲と仲間たち」より)
- 獅子舞いの動きが躍動感あふれていて感動しました。(田楽座「実まつり」より)
- メルヘンの意味と中也独特の表現が書かれていて、おもしろかった。(企画展「中也、この一冊——一つ」のメルヘン」より)

先行チケット
発売情報
早チケ
5月27日
発売!

「ミュージカル すてきな三にんぐみ」

2023年7月17日(月・祝)
①14:00開演 ②18:00開演
会場:山口市民会館 小ホール



誰もが恐れる、黒い帽子に黒いマントのこわいドロボウ三にんぐみ。夜になると馬車を襲って、奪った宝物を山の上の隠れ家に運び込む毎日。おかげで隠れ家は盗んだ宝物でいっぱい!ある晩、いつものように馬車を襲う三にんぐみ。でも、なんだか様子がいつもと違う!?馬車の中に宝はなくて、女の子が一人で乗っていたのです。この少女との出会いが、ドロボウたちの気持ちを変えていって…。三にんぐみは本当に悪者なの?愉快で、切なく感動的に描かれる、おしゃれなミュージカル!

[チケット情報]5月27日(土)~
[料金]全席自由 ※3歳以上有料
前売 一般 3,500円
any会員 3,000円
25歳以下 2,000円

mini PICKUP!

ウクライナ 国立フィルハーモニー 交響楽団演奏会 合唱団員 募集

世界屈指のオーケストラと一緒に「第九」を歌いませんか?山口市民会館では12月29日に、ウクライナ国立フィルハーモニー交響楽団を招き、演奏会を行います。その演奏曲の一つにベートーヴェン作曲「交響曲第9番(合唱付き)」があり、合唱団員を募集しています。5月から2回程度の練習に参加できる方であれば、初心者でも大歓迎。1年の締めくりに、ぜひ「第九」を歌って歓喜の世界をともに味わいましょう!

[対象]中学生以上
[定員]100名
[参加費]2,000円(中学生無料)
[問い合わせ]山口市民会館
TEL.083-923-1000
http://yamaguchi-civichall.com/
※詳しくは、山口市民会館のホームページ
あるいは募集チラシをご覧ください。

PICK UP EVENT! SPRING 2023
ピックアップイベント

山口市民会館

http://www.yamaguchi-civichall.com/

特撰落語名人会

三遊亭小遊三・林家たい平 二人会

2023年4月30日(日) 14:00開演(13:00開場)

会場:大ホール

落語の魅力をつつりと。

今年で8回目を数える特撰落語名人会シリーズ。今回の顔付けは、笑点メンバーとしてお馴染みの三遊亭小遊三と林家たい平が登場。押しも押されぬ大看板2人に加えて、山口ゆかりの新作講談の創作にも取り組む山口在住の講師・神田京子が高座に華を添えます。足を運ばずともネット配信で何でも楽しめる時代となった昨今ですが、やはり生でのライブ感はまだ格別!話し方や所作にいたるまで日々磨きあげられた話芸は、会場全体を笑いの渦に包みこみ、唸を聴く私たちを魅了してくれます。



三遊亭小遊三 林家たい平 神田京子

わたしはココに注目する!

落語の登場人物には、おっちょこちょいで少しおバカ、でもどこか憎むことのできない愛すべきキャラクターがたくさん!!彼らのやりとりを想像しながらクスッと心がほころぶひと時をぜひ。

チケット情報 | 発売中

料金 | 全席指定 前売 一般 4,000円 / any会員 3,600円

DRUM TAO 30周年記念 「THE TAO 夢幻響」

2023年6月24日(土) 16:00開演(15:00開場)

会場:大ホール

究極のドラム・アート。

今年活動30周年を迎える、日本が誇る和太鼓エンターテインメント集団“DRUM TAO”。和太鼓による「世界に通用するエンターテインメントを創造する!」という、大きな目標のもと結成されたパフォーマンス集団は、結成から4年を経た1997年に初の完全オリジナル作品「天響」を発表。それから毎年新作を創り続け、結成30周年を記念するこの年に、「天響」を今であればどう表現するかをテーマにして新作を創作しました。それは、これまでに想像もできなかった新しい演出・表現の作品となるでしょう。近年ますます活躍の幅を広げる彼らが、30年で積み重ねてきた超絶技巧と表現力



を駆使した圧巻の和太鼓パフォーマンスをぜひご堪能ください。

わたしはココに注目する!

阿蘇くじゅう国立公園の雄大な自然をバックにした野外劇場「TAOの丘」が、「DRUM TAO」の本拠地・大分県に2020年にオープンしました。大自然の息吹を感じるエネルギーなパフォーマンスを山口市民会館でも披露してくれることでしょう。

チケット情報 | 発売中

料金 | 全席指定 前売 SS席 7,900円 / S席 6,900円
当日 SS席 8,400円 / S席 7,400円 ※6歳未満入場不可

■特に記載のない場合、any会員割引は1会員4枚まで。
■いずれの公演も当日券は会員割引の対象外となります。
■特に記載のない場合、開場は開演の30分前です。
■特に記載のない場合、未就学児入場不可。託児サービスについては、お問い合わせください。

STRADIVARIUS SUMMIT CONCERT 2023



ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2023

1台でも数億といわれるストラディヴァリウスが11台も集結する夢のコンサートが、5年ぶりに開催されます。4度目の山口公演はどんなコンサートとなるのか、演奏する“ベルリン・フィルハーモニック・ストラディヴァリ・ソロイスツ”のメンバーにプログラムの聴きどころなどをお聞きました。

プログラム

モーツァルト: ディヴェルティメント 二長調 KV.136 (125a)
J.S. バッハ: 2つのヴァイオリンのための協奏曲 二短調 BWV1043
ヴィヴァルディ: 2つのチェロのための協奏曲 ト短調 RV.531
ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲集「和声と創意の試み」より「四季」作品8

ベルリン・フィルハーモニック・ストラディヴァリ・ソロイスツ
世界最高のオーケストラ“ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団”を中心とした弦楽アンサンブルで、現在、望み得る最高の演奏者揃いである。1993年の「サミット・コンサート」開催に際して結成され、以来、2年ごとの来日コンサートにすべて出演して、その比類のない演奏は至るところで絶賛を博し、99年にはベルリン・フィル当局からその名称を冠したアンサンブルとして公に認められている。

※曲目は一部変更となる場合があります。

「ストラディヴァリウス・サミット・コンサート」は、私たちにとっても特別な経験。

“ベルリン・フィル”と “ストラディヴァリウス”との 組み合わせはこのツアーが唯一

今回、2018年以來の5年ぶりのコンサートとなります。意気込みをお聞かせください。

コロナ禍の苦しい時を経て来日できることを大変嬉しく思います。5年という歳月は、私たちにとって大変長い時間でした。また、ベルリン・フィルとストラディヴァリウスとの組み合わせによるこのツアーは、この「ストラディヴァリウス・サミット・コンサート」が唯一なものだけに、私たちにとっても特別な経験ですし、日本ツアーを今から非常に楽しみにしています。

日本の聴衆のクオリティは世界トップクラス。マナーが良く、いつも我々の演奏に真剣に耳を傾けていただいていることに感謝しています。また、コンサートの後に日本各地で美味しいものを食べることも楽しみにしています。それが次のコンサートの大きな活力となるのです!

アンサンブルの美しいハーモニーをお聴きください。

今回のプログラムの聴きどころを教えてください。どの曲もアンサンブルの美しいハーモニーに注目していただきたいです。モーツァルトが16歳という若さで作曲した「ディヴェルティメント KV.136」は、潑刺とした曲調と優雅なカンタービレが共存する見事な曲です。バッハの名曲「2つのヴァイオリンのための協奏曲」は、2台の

ヴァイオリンが独奏楽器として力強いアンサンブルに見事に絡む美しさを堪能いただけます。また、今回ヴィヴァルディの曲を2曲演奏します。その一つ「2つのチェロのための協奏曲」は演奏される機会が少ないかもしれませんが、秀美なコンチェルトで、当時は独奏楽器としてはあまり認知されていなかったチェロにスポットを当てた作品です。チェロとアンサンブルのハーモニーが美しく、そして力強く響くサウンドをお楽しみください。もう一つの「四季」は、いまでも数多くの人々を魅了し続けている、クラシック曲の定番中の定番。4人のヴァイオリン奏者たちが春・夏・秋・冬の演奏を季節ごとに代わる代わる演奏しますので、どんな演奏になるのかご期待ください。

楽器の奏でるとおりに弾くことで、 ストラディヴァリウスの魅力を 最大限に引き出す

演奏するうえで気をつけていることはありますか?自分が単に演奏するのではなく、舞台上の他の共演者の演奏に注意深く耳を傾けるように気を付けています。それこそが美しいハーモニーを生み出す秘訣なのです。また、ストラディヴァリウスだけで奏でられることにも特別なものがあり、そういった熱い想いを大切にしています。コントロールするのではなく、楽器の奏でるとおりに弾くことで、ストラディヴァリウスが持つ魅力を最大限に引き出すことも、演奏する上で大切にしています。

公演情報

ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2023

2023年5月26日(金) 18:30開演(17:45開場) 会場:山口市民会館 大ホール チケット発売中

[料金]全席指定 S席 8,000円(25歳以下 4,000円) / A席 6,500円(25歳以下 3,000円) / B席 5,000円(25歳以下 2,000円) / B席のみ親子チケットあり
※未就学児入場不可 ※any会員は一般料金より各1,000円引(1会員4枚まで) ※当日券はany会員割引の対象外 ※障がい者割引あり(詳しくはチラシや当財団のwebサイトを参照)

4 April

5 May

6 June

※掲載内容は2023年3月1日現在のものです。変更場合がありますので、ご了承ください。

山口情報芸術センター [YCAM] https://www.ycam.jp/	開催中 バクダバン・フード・スタディ・グループ「The Flavour of Power」展 (本誌p.8参照)	5 第7回 未来の山口の運動会 (本誌p.10参照)	3 許家維+張碩尹+鄭先喻 新作展「浪のしたにも都のさぶらふぞ」 (本誌p.2~7参照)
山口市民会館 http://www.yamaguchi-civichall.com/		30 特撰落語名人会 (本誌p.12参照)	13 森山直太郎「素晴らしい世界」
中原中也記念館 https://www.chuyakan.jp/	開催中 第20回テーマ展示 詩集「山羊の歌」		26 ストラディヴァリウス・サミット・コンサート2023 (本誌p.13参照)
	開催中 16 企画展II 中也、この一篇——「一つのメルヘン」	19 企画展I 中原中也と関東大震災 (本誌p.11参照)	28 劇団仲間「給食番長」
		29 中原中也生誕祭 「空の下の朗読会」 (本誌p.8参照)	
		29 第28回中原中也賞贈呈式 会場:かめ福オンライン (本誌p.8参照)	
		28 中原中也を読む会	26 中原中也を読む会
			24 DRUM TAO 30周年記念 (本誌p.12参照)

[マーク説明] 体験する 参加する 聴く 観る

INFORMATION

■公演チケットのお求めについて

山口市文化振興財団が主催・共催する公演チケットは以下の方法にてご予約・ご購入ください。

予約方法

インターネット 山口市文化振興財団ホームページ (24時間受付)

<https://www.ycfcp.or.jp/>

※any会員の方は先行予約初日の10:00より、一般の方はプレイガイド発売日の10:00より受付開始。



電話

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり)

TEL. 083-920-6111

窓口

チケットインフォメーション (10:00~19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日、ほか臨時休館日あり)

山口情報芸術センター

※先行予約初日はインターネットまたはお電話のみの受付となり、窓口のご利用は翌日からとなります。

支払方法

クレジットカード インターネットでチケット予約された際に利用いただけます。

チケットのお受け取りはお近くのセブンイレブンまたは山口情報芸術センターにお越しください。

セブンイレブン

インターネット・電話でチケット予約された際に利用いただけます。

お近くのセブンイレブンでお支払いいただけます。チケットはその場でお受け取りください。

窓口

※上記予約方法「窓口」参照

■託児サービスについて

山口市文化振興財団では託児サービスを行っています。

※おもちゃ、おむつ、着替え等必要なものはご持参ください。お子様の食事は事前に済ませておいてください。

公演開催時

[対象] 0才(6カ月)以上

[料金] 1人につき700円、
2人目以降は1人につき500円

[時間] 開演の30分前から終演後30分まで

[申込方法] 公演日の1週間前までに左記チケットインフォメーションまたは山口情報芸術センターにてお申し込みください。

※公演によっては行わない場合もございます。事前にお問い合わせください。

山口情報芸術センター キッズスペース

[対象] 1才以上

[料金] 1人につき30分200円

[時間] 13:00~17:00 1回2時間まで
(山口市立中央図書館休館日を除く)

[申込方法] 当日、山口情報芸術センターにてお申し込みください。満員の際は順番制となります。

any 会員募集!

※入会方法等、詳しくはお問い合わせください。

any会員は、山口情報芸術センターや山口市民会館などで行われる財団主催・共催の公演や展示、ワークショップ等の情報をいち早くお知らせし、楽しんでいただくための友の会です。公演のチケットが一般の方よりも安く、早く購入できるなどの特典があります。

[年会費] 1,500円+入会金500円 ※会員期間内に更新される場合、入会金は不要です。

[会員期間] 入会日から翌年の入会月末まで

[会員特典] チケットの先行予約および割引購入(公演によっては適用されないものもあります)、情報誌の無料送付、YCAMシネマ・中原中也記念館招待券プレゼントなど



公益財団法人

山口市文化振興財団

Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7(山口情報芸術センター内)
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
https://www.ycfcp.or.jp/ zaidan-info@ycfcp.or.jp

【新型コロナウイルス感染症対策について】

発熱など風邪の症状のあるお客様は、ご入場をご遠慮ください。ご鑑賞前に消毒液のご利用やこまめな手洗いをお願いします。ご来場の際はマスクの着用をお願いします。場内は可能な限り換気を行います。万が一感染者が発生した場合は、お客様の個人情報を公的機関に提供する場合がございます。あらかじめご了承ください。今後の情勢により、公演の開催が変更または中止になる場合がございます。

A 中原中也記念館

〒753-0056 山口市湯田温泉1-11-21
TEL. 083-932-6430 / FAX. 083-932-6431
[開館時間] 9:00~18:00(入館は17:30まで) [5~10月]
9:00~17:00(入館は16:30まで) [11~4月]
[休館日] 月曜(祝日の場合は翌日)、毎月最終火曜(変更あり)、年末年始
https://www.chuyakan.jp/

B 山口情報芸術センター[YCAM]

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL. 083-901-2222 / FAX. 083-901-2216
[開館時間] 10:00~20:00(夜間イベントのある日は22:00まで)
[休館日] 火曜(祝日の場合は翌日)、年末年始、臨時休館日
https://www.ycam.jp/ information@ycam.jp

C 山口市民会館

〒753-0074 山口市中央2-5-1
TEL. 083-923-1000 / FAX. 083-928-8488
[開館時間] 8:30~17:15 [休館日] 年末年始
http://www.yamaguchi-civichall.com/

検定 中 也
 A. ■ みかん
 (「冬の長門峡」には「やがても密柑の如き夕陽、／欄干にこぼれたり。」という表現があります。)

編集後記
 チケットが入手しにくいと言われる人気ミュージカルを年末に観ることができ、良い1年の締めくくり。時々思い出して、まだ余韻に浸っています。[M.D] 念願だった数学の研究者・森田真生さんのトーク・ライブへ。何かは分からないけど何かに開眼しそうな面白さと、止めどない怒涛のトーク術に感服! [K.A] 特集インタビューのテープ起こしをしながら、お話しに思わず聞き入り…。展示オープンが楽しみです! みなさまませひお越しください! [Y.I]



公益財団法人
山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

